

久路亭為理

579

雜
12
四

^ 13
2703
4



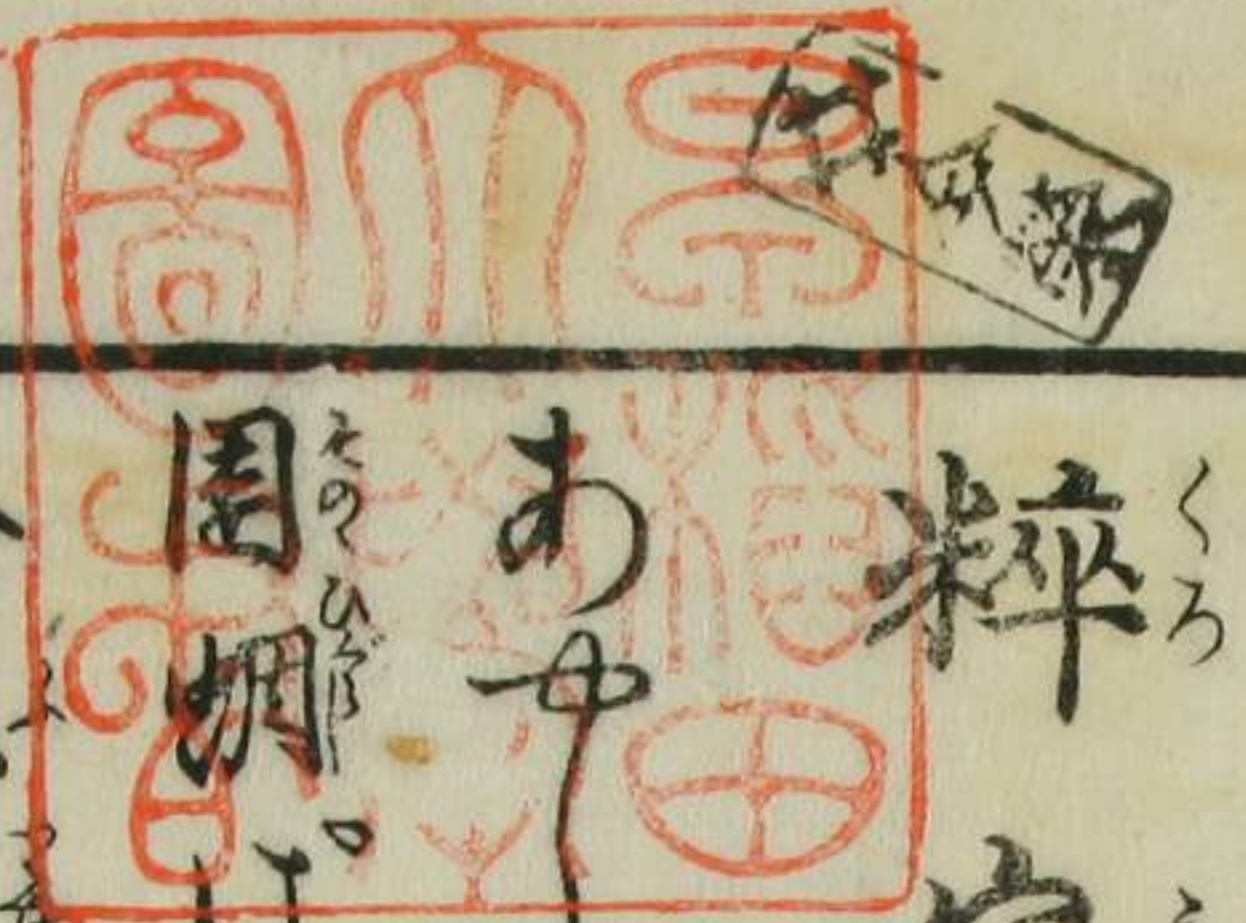
13
2903
4



三十一 五

坪内雄蔵

粹くろ字う留ろ理り卷りとに



あやの竹格子たけこうしは桐きりのふとれた肴くしん板いたうけてこい佻諧ていがい
 周廻しゅうかいはいうわ空くう也や桑津そうしんなとく書かき下くだよよの不思ふし庵あん
 又また不ふろろ軒けん或ある是こゝ喰く店てんとと久くるる遠とほ又またの熟じやく字じよよあはれ
 雅が名なとと紀きままししのの涉せつ若わ述じゆつのの外げ題だいとと思おもふふととたたりり
 あらとと格かく子しの内うちよよの食ま卓たくのの中ちゆうよよ机きのの上うへにに身み
 許たりりとと扱ありりままるる程ほど明めい巾きんだけだけがが袷あののいいららぬぬ度どめめたた

一あらと

中。左周記の写しとあるをまゝに在り。許多の
 書物はとくしつひに申ふも。刻ら不愛がらうく出と
 子引高用集是むりいかにては活りそとそり。
 社中集りての雜誌大新仁和寺の六本校の舎食
 じり。各怪談殊事とたつとひ。ある折句又字
 場附し物舊すしと友古人のなるどりと初見す
 上。涼備がうぬいし汗考がてあうなんざうり。拙老
 是てつとる。各補助とほれりまた扱とるの例

とほれりすまよ

幽玄道まらふ系がしあう人は喰れり
 春嬌葉枯らちうぬぬなくそ荒るけり
 呼立ありしあぬいぬきそくあうぬる
 獨居釣ららり釣籠落して苦しいあ
 鄙客是まくとむり花乃十一六
 剛強起るこつ病そこつ六乃はまうか
 天疫殺いあやうぬとあじとやうは

かなぐりつゝ白濁と集て撰て見すまよと造次類
 沛。芽と吐悞とくくわね目になく。後蕩株の志を
 よなむんずと飲し。粹きひの分り見からちうの
 中うよつ。海内知己とせんたとそをりるふを天
 涯比隣のごくくと先のみとび歩けを洋物
 と記の何しても弄弄くまう人隈秀の上よである
 うる君家の女身れ家と十が亭の玉の画漢が
 腕押あて居りぬ。五足ぐま埋り似と世祝氣

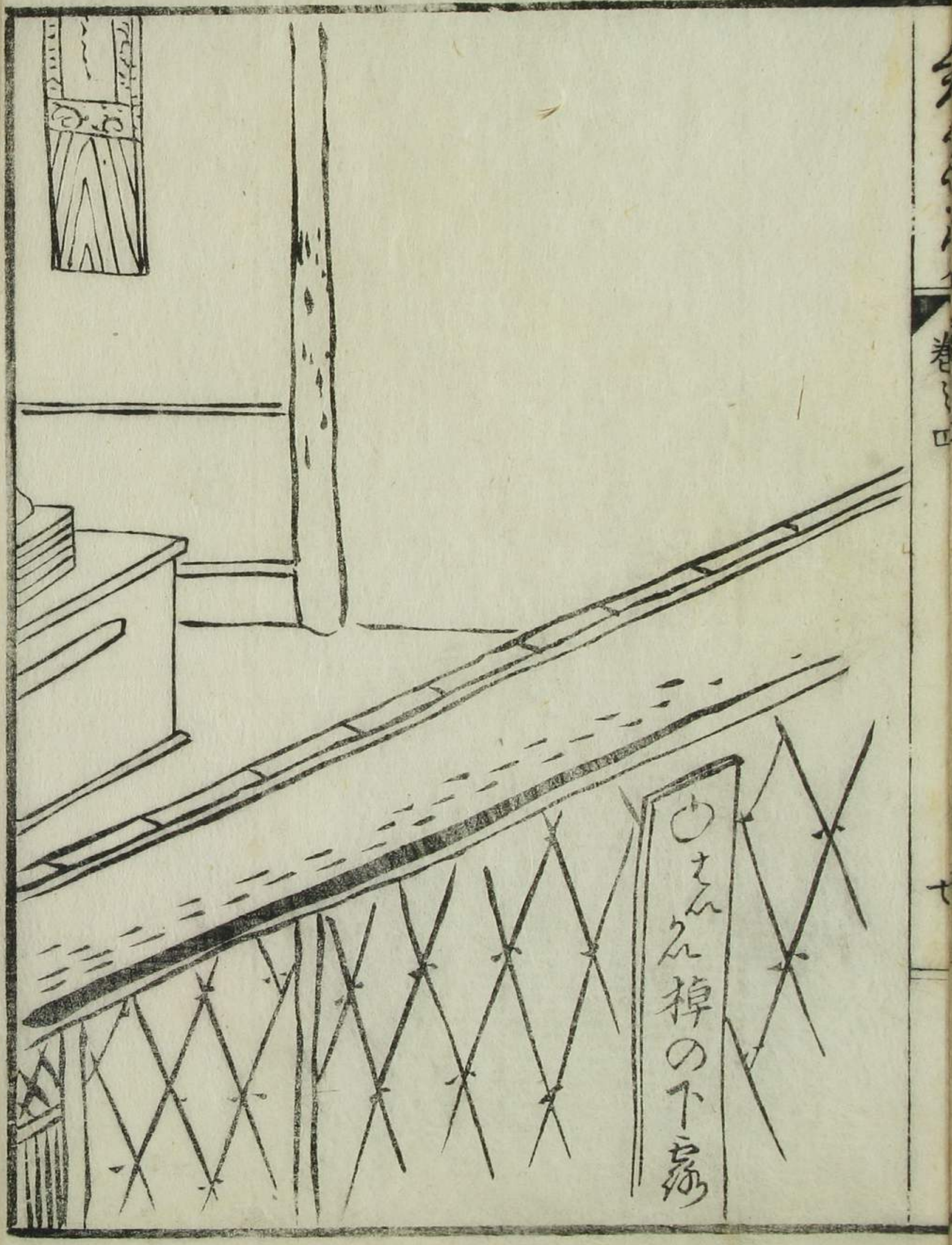
象で何仏が白の袖書いとんとかめ詞をたこと
 ぶが笑の俤心で涓流席の川でも古道屋の店り
 立て居。喧嘩堂の鹿押の麦飯母老のの。人と知
 こと後美のむりも知己打く。室よるよ合の
 物づらまうした卒く後さ。此宗直も古白のよを
 まど。發白の江下よ夜り。いり先しう和弄之林と
 松まよ于菓子袋の中うよ不判押なりと息く
 居らるゝ口合の巻。又巻よ五つぎして人たら地

勿^{りつ}祈^いよてエ、便^う毒^{どく}の^ね中^{ちゆう}より辰^{しん}砂^さ中^{ちゆう}より^{しん}腹^{はら}満^{まん}陳^{ちん}
皮^ひ今^{いま}さらよ^ええ^ぬ脱^{だつ}肛^{こう}が^ち尻^{しり}の^{かん}甘^{かん}茶^{ちや}ら^んく^ぞハ^さッ^と
そ^つの^いつ^てい^らる^そその^の雨^{あめ}門^{かど}下^{した}の^の判^{はん}友^{ゆう}株^{かぶ}乳^{にゅう}母^ぼ育^{いく}の
見^みん^だく^ふお^の負^お備^び備^び米^{まい}扱^あ米^{まい}通^と以^もり^の考^{こう}屋^や町^{ちゆう}の^の河^が六^{ろく}で^は
子^こ考^{こう}の^の輪^{りん}負^おと^りの^のい^いせ^いと^と為^なま^した^とは^とバ^者も^もえ
ま^せん^とと^と押^おり^ました^と不^ふ具^ぐか^かと^とで^では^はづ^づれ^れと^と思^おも
ま^まの^の様^{やう}か^かが^がら^らる^るを^を扱^あら^らい^い何^{なに}せ^せも^もと^と考^{こう}の^のお^おと^とま^ま
こ^こら^らも^もバ^バな^なて^て居^いる^るく^くら^らが^がじ^じと^とハ^ハッ^ッと^とぬ^ぬら^らい^い先^ま
ほ^ほ子^こ考^{こう}と^とハ^ハッ^ッと^と子^こが^が引^ひ舟^{ふね}や^や禿^{かぶ}と^と思^おと^とら^らし^して^てぬ^ぬら^らい^い
る^るで^でお^おぶ^ぶる^るい^いか^かぢ^ぢせ^せど^どり^りと^とも^も否^{いな}の^の作^{さく}と^と仲^{なつ}孫^{まご}一^{いち}
と^とり^りと^とり^りと^と続^{つづ}く^くと^との^のこ^こと^と又^{また}あ^ある^る涙^{なみだ}よ^よ矣^いか^か達^{たつ}少^{せう}水^{すい}
と^とり^りと^とり^りと^とア^アて^てば^ばの^のま^まぬ^ぬ衣^えの^の名^なの^の以^もつ^つて^て流^{なが}れ^れ中^{ちゆう}と^となり^り
ま^まる^るこ^こら^らも^も二^に流^{りゅう}よ^より^りま^ました^たス^スケ^ケの^の秘^ひ傳^{でん}れ^れ七^{しち}の^の嫁^{よめ}入^{いり}
の^のと^とア^アな^なら^らい^いこ^こ。寂^{しやく}寞^{ぼく}の^の放^{はう}免^{めん}の^の附^つを^をの^のな^など^ど。食^くく
方^{ほう}便^{べん}の^の附^つり^りの^のこ^こを^を状^{じやう}り^り凡^{ぼん}の^の髪^{かみ}の^のと^と入^いて^てお^おる^る是^こ
の^の事^{こと}の^のこ^こと^とも^もじ^じう^うと^とは^はま^まぬ^ぬら^らい^いで^でこ^こら^らい^いお^お

ほ^ほ子^こ考^{こう}と^とハ^ハッ^ッと^と子^こが^が引^ひ舟^{ふね}や^や禿^{かぶ}と^と思^おと^とら^らし^して^てぬ^ぬら^らい^い
る^るで^でお^おぶ^ぶる^るい^いか^かぢ^ぢせ^せど^どり^りと^とも^も否^{いな}の^の作^{さく}と^と仲^{なつ}孫^{まご}一^{いち}
と^とり^りと^とり^りと^と続^{つづ}く^くと^との^のこ^こと^と又^{また}あ^ある^る涙^{なみだ}よ^よ矣^いか^か達^{たつ}少^{せう}水^{すい}
と^とり^りと^とり^りと^とア^アて^てば^ばの^のま^まぬ^ぬ衣^えの^の名^なの^の以^もつ^つて^て流^{なが}れ^れ中^{ちゆう}と^となり^り
ま^まる^るこ^こら^らも^も二^に流^{りゅう}よ^より^りま^ました^たス^スケ^ケの^の秘^ひ傳^{でん}れ^れ七^{しち}の^の嫁^{よめ}入^{いり}
の^のと^とア^アな^なら^らい^いこ^こ。寂^{しやく}寞^{ぼく}の^の放^{はう}免^{めん}の^の附^つを^をの^のな^など^ど。食^くく
方^{ほう}便^{べん}の^の附^つり^りの^のこ^こを^を状^{じやう}り^り凡^{ぼん}の^の髪^{かみ}の^のと^と入^いて^てお^おる^る是^こ
の^の事^{こと}の^のこ^こと^とも^もじ^じう^うと^とは^はま^まぬ^ぬら^らい^いで^でこ^こら^らい^いお^お

猪名いのなの心こころあつとらや。このきもこと笑わららつると。
 くらやあつとら付つき人ひとなり。ふらふら山やま上のぼりぬ。
 溝ぞう藏のりのやうふ懐い孤ごや短たん冊ずくの美み名なの肩かたきいせい
 け沸わ直ち身みがらう書かさるべし。此人このひと情じやう家け性せい氏しも
 紀きり坂さかのよなどよそあつとらと思おもふ先ま。こふ女をんな
 ちよりまふらあんであつとら。奇き技ぎでこぶおた
 と。着きるよめ、裾すそをひすつぎとみどろく甲か後ごく
 しとふようらげ。よめいらぶらくをを。あ髪かみ

あつとらのよ代よしろ番ばん段だんの名な代しろよこりぬ付つきりがりの
 考かんよつとら。あつとらよあひし時とき。穉ち儀ぎもるよよと
 蒙もうのよふまじるごう。推おしあがとあつとら。穉ち儀ぎもるよよと
 の切きら漢かん語ごらり。寢ね入いの寂さび道どうを座ざがらりよと
 よし悪わる口くちのよあむせんとなひし忘わすれぬ先ましはが遠とほ
 の下した男おとこよつとら。あつとらよあひし時とき。穉ち儀ぎもるよよと
 二十にじゅうさる男おとこの項かたのよさるよとらよとら。大おほ江え橋はし
 渡わたりげのよ物ものも七しち月げつのつぎと代しろしとらよとら。



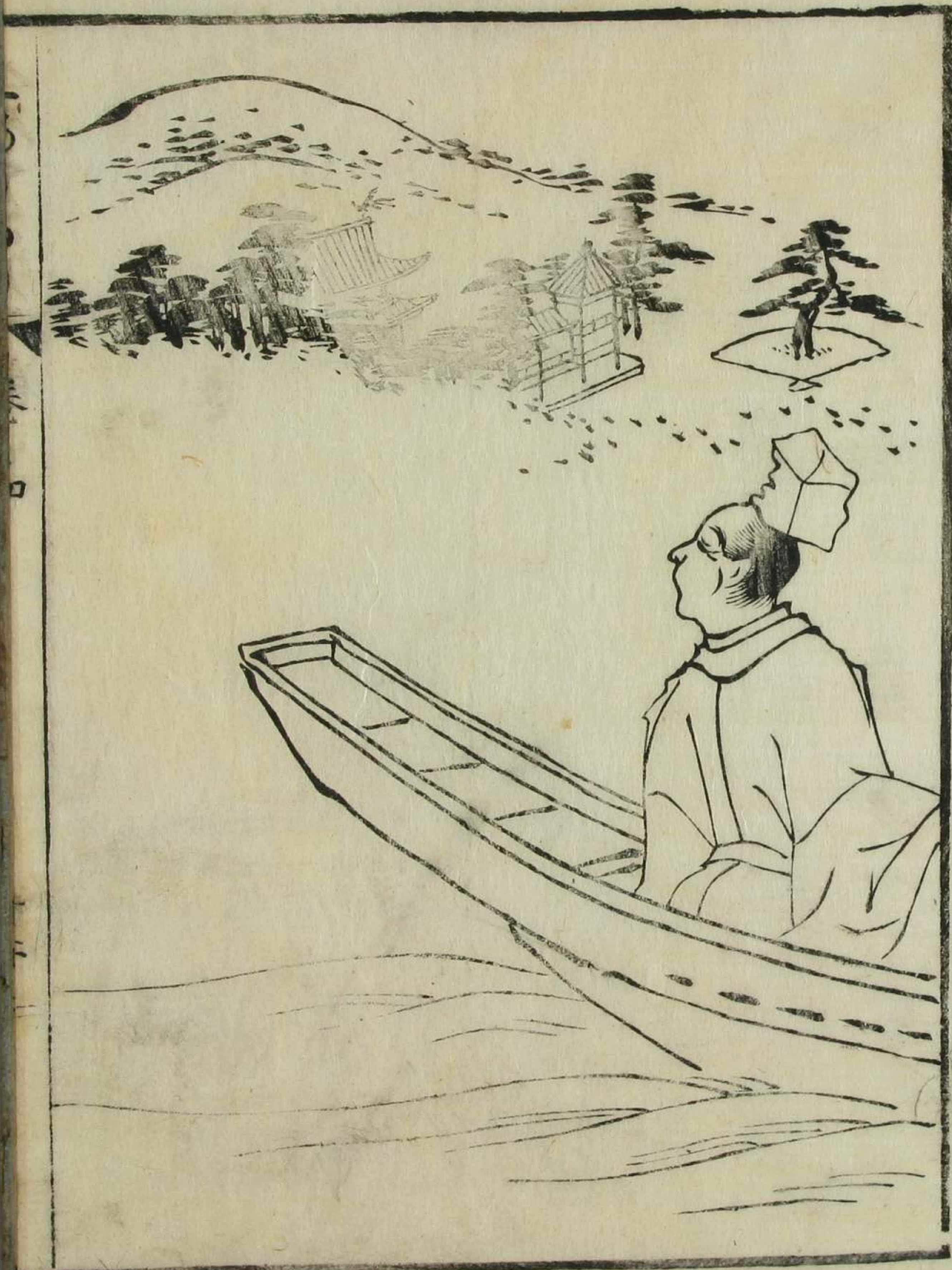
うさふ
ん
棹の下
ぶら

村の邊へ来て、言はせんとし、さしはし、さしはし、
 溝が入す、さしはし、さしはし、梅の文は、
 のうらと、さしはし、さしはし、さしはし、
 八時のうき、さしはし、さしはし、さしはし、
 付する、さしはし、さしはし、さしはし、
 あまりの、さしはし、さしはし、さしはし、
 うきよら、さしはし、さしはし、さしはし、
 あり、さしはし、さしはし、さしはし、
 あり、さしはし、さしはし、さしはし、

と、ゆりとは、さしはし、さしはし、さしはし、
 中、さしはし、さしはし、さしはし、
 笑、さしはし、さしはし、さしはし、
 加賀、さしはし、さしはし、さしはし、
 湯、さしはし、さしはし、さしはし、
 見、さしはし、さしはし、さしはし、
 の、さしはし、さしはし、さしはし、
 は、さしはし、さしはし、さしはし、

いりし新入人が来ばら女のと度おと仕替へ而
 が小祝の艶史う西廂記とすで飲で居れ川
 ち酒のほろの下入栗田女の酒瓶より次酒を
 はだのしらそ欠せしきる。ひくはる記書の
 販出したる。台守りけ成。町代の書家の巻き
 する。俗格應の花供織法めたる。いと名の供
 の及之るたる。町がみゆひのういれたる。
 中仕の考れ鹿にしとびたる。なごうく云はるれど。

粹法茶梅が川にさ着はるきと。りるをなす
 販物くくとも。本の價れそのとれたう。いと
 たふよといふ人のあきと。らのもとれ紙のあ
 ぶ後ば見え及らまきうれたはるぬ。今のひりし海
 の國行が一夜とやよほりふまたりし人法と免
 法いとぬれて。屋元と改湖邊の沢時ならきより
 きうらひた。茶に出ては家の遠り。精もせりて
 引込。常の表なまき。はるれあしと。はるせり



東京牛久保大橋
餘丁百拾番地
坪内雄藏

山崎芳村
卷之四

巻の末より。知らぬ人々是の何げの他では
アラスカなどもいふ事ある。一と云ふ。是の
一は、^ふ房がいを一す。一は、おみも一は、後が考がでた
ましたる。と云ふ。社に砂おがるといふ。是のま
まごころどいほと云ふ。と云ふ。ある。と云ふ
十月中拂に。門口は書付と云ふ。と見一に
無中仕切馬と。祓んどろに。その字の長が付てを
しもおし。はかあひとほり。と云ふ。と云ふ。でい。

不孝とのでも。卷末でも。沖法と云ふ。しきりて又
うんと海のこと。なや。一古よて。教考り。梓巫の候
か。考も。ま。茶漬。おた。み。び。人。の。川。の。表。り。と
よ。字。活。へ。能。く。見。に。ゆ。ん。と。是。の。の。と。め。白。の
用。意。に。あ。年。紙。と。い。は。物。よ。詩。考。不。白。な。と。な。ま
せて。ある。一。並。板。何。と。の。が。来。て。も。風。雅。の。出。合。を。ら
べ。と。り。初。め。後。と。攪。う。と。り。く。字。活。よ。た。と。を。は。た
か。ぐ。れ。に。ら。う。の。か。り。い。ま。ば。ま。ら。た。と。の。ま。く。と。

あがり川^{カミ}流^たゆるが枝^{えだ}ま^ましてはらうらうらな川
のおと。ま^まら^らい^い小舟のよふどらうらとぬなれり。
用^{もち}ふかへんとのさうのり。おくら頼政のゆうきも
やとまそふか^{せう}吹^ふま^まていんぞら古^この^のありし^し候^{こう}
よ。あぐくの根^ね同^{どう}を^をとい^い。漢^{かん}父^ふあつと^として
舟^{ふね}もさ^さた^たく^くま^まば。唇^{くちびる}首^{くび}いと^とへん

ムろうるりまてえに終

